

製品名: ZAP-70 (リン酸化Tyr315) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05643**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	ZAP70
別名	ZAP70; SRK; Tyrosine-protein kinase ZAP-70; 70 kDa zeta-chain associated protein; Syk-related tyrosine kinase
遺伝子 ID	7535.0
SwissProt ID	P43403
免疫原	抗血清は、ヒト ZAP-70 の Tyr315 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

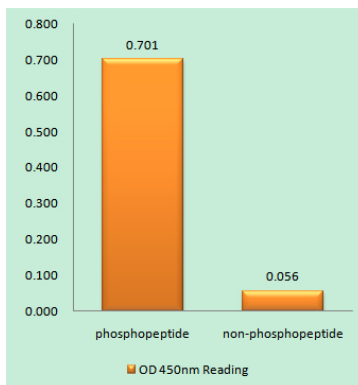
背景

この遺伝子は、タンパク質チロシンキナーゼファミリーに属する酵素をコードし、T細胞の分化およびリンパ球の活性化に関与しています。T細胞抗原受容体 (TCR) 刺激によりチロシン残基がリン酸化されるこの酵素は、Src ファミリーキナーゼである Lck および Fyn と連携して、TCR を介したシグナル伝達の初期段階で機能します。また、この酵素は胸腺細胞の分化にも不可欠です。この遺伝子の変異は、CD8 陽性 T 細胞の選択的欠損を特徴とする重症複合免疫不全症である選択的 T 細胞欠損症を引き起こします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見出されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。疾患: ZAP70 の欠陥は選択的 T 細胞欠損 (STD) の原因である [MIM:176947]。STD は、CD8 型 T 細胞の選択的欠損を特徴とする常染色体劣性遺伝性の重症複合免疫不全症である。ドメイン: SH2 ドメインは、CD3Z のリン酸化チロシン活性化モチーフ (TAM) に結合します。機能: T 細胞の発達とリンパ球の活性化に関与する。TCR を介した IL-2 産生に必須。アイソフォーム 1 は TCR を介したシグナル伝達を誘導しますが、アイソフォーム 2 は誘導しません。オンライン情報:ZAP70 変異 db,PTM:T 細胞抗原受容体 (TCR) 刺激によりチロシン残基がリン酸化されます。完全な活性を得るには、Tyr-319 のリン酸化が不可欠です。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。SYK/ZAP-70 サブファミリー。類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性:2 つの SH2 ドメインを含みます。細胞内局在:抗原刺激後、アイソフォーム 1 は免疫シナプスに集中し、アイソフォーム 2 は細胞質内に留まります。サブユニット:リン酸化されると SLA2 と相互作用します。CD3Z およびリン酸化 NFAM1 と相互作用します。CBLB と相互作用します (類似性による)。リン酸化されると CBL および SLA と相互作用する。SLA (または SLA2) および CBL との結合は、おそらくその破壊につながる。SHB と相互作用する。DEF6 と相互作用する (類似性による)。FCRL3 と相互作用する。組織特異性: T 細胞およびナチュラルキラー細胞で発現する。、

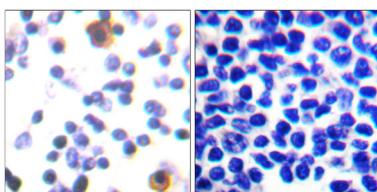
研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害;T細胞受容体;原発性免疫不全;

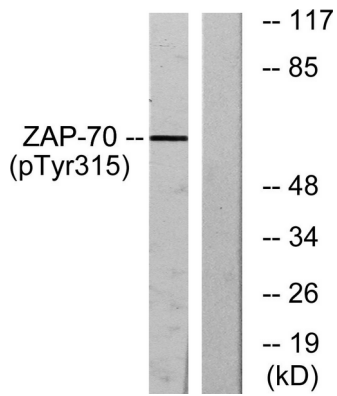
画像データ



ZAP-70 (リン酸化 Tyr315) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



ZAP-70 (リン酸化 Tyr315) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒトリンパ節の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Ca⁺ 40nM 30°Cで処理した Jurkat 細胞ライセートの ZAP-70 (リン酸化 Tyr315) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。